

19 80

年代

里山保全の黎明、里山の意義の再発見
1988 「自然を守るとはどのようなことか (守山弘)」
市民による里山保全の展開

19 90

年代

1992 第1回全国雑木林会議
1995 「里山物語 (今森光彦)」
1996 第1回森林と市民を結ぶ全国の集い
行政による施策・事業展開

20 00

年代

2000 愛知万博「海上の森」開発断念
2002 新・生物多様性国家戦略「第2の危機」
2007 第三次生物多様性国家戦略「SATOYAMAイニシアティブ」
各地の自治体に里山条例、ナラ枯れの拡大

期日：2010年10月30日(土)～31日(日)

会場：大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区長居公園1-23 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>)

主催：森林総合研究所関西支所/大阪市立自然史博物館/総合地球環境学研究所「日本列島における人間-自然相互間の歴史的・文化的検討」プロジェクト

20

10

年代のための

里山シンポジウム

— どこまで理解できたか、どう向き合っていくか —

10月30日(土) 10:00～17:00

【第1部:里山とは何か?】

- 里山は「自給」的システムであったか?
佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館)
- ナラ林の植生学的位置づけ
野嵜 玲児 (神戸女学院大学)
- 千年、百年、数十年スケールでの森の移り変わり:
里山の形成と変貌
高原 光 (京都府立大学大学院)
- 原・里山の成立
水野 章二 (滋賀県立大学)
- 明治・大正期における外来肥料の増加と草山(秣
場・原野)への植林
小林 茂 (大阪大学大学院)
- 里山の土地利用変化
深町 加津枝 (京都大学大学院)
- 木材利用技術の変化と里山資源
村上 由美子 (総合地球環境学研究所)

10月31日(日) 9:30～16:40

【第2部:里山をどうするか?】

- 人為攪乱とナラ類
大住 克博 (森林総合研究所)
- 不安定化する里山生態系—近年のナラ枯れ拡大が
示すこと
黒田 慶子 (森林総合研究所)
- 地域生物多様性の保全
本間 航介 (新潟大学)
- 市民参加による里山保全の社会学
松村 正治 (恵泉女学園大学)
- 資源利用を成立させる実践技術
津布久 隆 (栃木県自然環境課)
- 里山からの資源利用は社会も豊かにできるのか
奥 敬一 (森林総合研究所)

【総合討論】

※ 両日とも休憩時間にポスターセッションを行います。

【参加要領】 参加は無料です。参加ご希望の方は、事前に下記のシンポジウム事務局まで、メール、はがき等で氏名、所属、連絡先(電話・メール)をお知らせください。当日の参加も可能ですが、会場の定員(200名)を超える場合には、入場を制限する場合があります。なお、宿泊は各自で手配願います。

【ポスター発表の募集】 シンポジウムに関連する話題について、会場でのポスター発表を募集します。発表希望者は、氏名、所属、タイトル、連絡先と、12ポイントでA4一枚に収まる要旨をワードファイルで作成し、下記のシンポジウム事務局までお送りください。写真図表も貼りこみでお願いします。提出期限は9月末日とします。要旨は印刷して当日会場で配布します。ポスターサイズはおって連絡いたします。

【シンポジウム事務局】

大住克博 [osumi@ffpri.affrc.go.jp] または 奥 敬一 [hoku@ffpri.affrc.go.jp]

森林総合研究所関西支所 〒612-0855京都市伏見区桃山町永井久太郎68 電話: 075-611-1201 (代) Fax: 075-611-1207